

令和3年度 保育園の評価

『保育所保育指針』の第4章 「保育の計画及び評価に保育士などと保育所の自己評価が努力義務」として示されています。

保育所の自己評価について、保育指針では次のように規定されています。

「保育所は保育士の質の向上をはかるため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえて、当該保育所の保育内容などについて自ら評価を行い、その結果を公表するように努めなければならない」

本園では、保育所の自己評価を通して、保育所の保育実践を見通しながら、子どもの保育と保護者支援を担う専門性を高めています。

いばら保育園保育理念

ゆたかなころろ すこやかなからだ とともにそだつなかま

保育目標

心も体も伸びやかによくあそぶ子ども

保育方針

- ・子ども達の主体性を大切にしながら、基本的な生活習慣を身に付け、集団生活が楽しめるようにする。
- ・異年齢児や友達との関りの中で、いたわったり励ましあったりしながら、優しい心と思いやりのある子を育てる。
- ・園外保育に出掛け、自然と触れ合う中で情緒や身体を育てる。

全体的評価

昨年同様、新型コロナウイルス感染防止対策のため、玄関、各クラスなど消毒用のボトルの設置をしている。手指消毒も習慣になっている。また、安心して食事ができる空間の確保ができるようにパーティションや同一方向を向いての食事、同じテーブル 4 人までの食事などできる限りの感染対策が定着している。

保育は、自分を表現しながらやってみたい気持ちを受け止め、安心して過ごせる保育園であるように、子どもひとりひとりの今を大切に保育してきた。そのためにも、職員同士話し合い、共通理解や連携を持つように取り組んできている。また、行事は、日常生活の延長線上にとらえ、日頃の生活をふくらませる体験として取り入れていけるように、季節を感じるものや自然・社会に触れる体験なども計画的にとり入れ、子どもたちの生活や成長の節目になるように考え実施してきた。コロナ禍での行事や感染対策は、保護者の理解を得ることが必要であったが、ご理解を頂きありがたかった。また、一つ一つの行事を行う意味について改めて考える機会にもなった。保護者を迎えることを控え、子どもの豊かな体験が安全安心にできるように、ホームページ上での動画配信やオンライン配信を行っている。

今後の課題

●子どもが、「自ら知りたい」「学びたい」と思う子どもの主体性を引き出す環境作りに取り組んでいきたい。 その一つとして、今の子どもの姿から、虫探しが十分にできるような、虫が集まってくるような環境作りに取り組んでいく。

また、コロナ禍だけではなく現在のネット社会に対応するために、ウェブサイトを活用し情報をリアルタイムでどんどんと提供していきたい。